

## 第 25 回 運転管理検討会 議事録

1. 開催日時：平成 22 年 1 月 20 日（水）14：00～17：30

2. 開催場所：四国電力 原子力保安研修所 会議室

3. 参加者（順不同，敬称略）

委員：幅野・富田（東京電力），坂元（関西電力），浦野（日本原子力技術協会），  
市川（電源開発），長谷川（北海道電力），陸浦（中国電力），村上（四国  
電力），宮北（BTC），中林（三菱重工業），瀧澤（東芝），村田（日立 GE）  
(計 12 名)

代理出席者：名知（日本原電・山崎代理），高村（九州電力・河津代理），松本（NTC・  
勝矢代理），斉藤（東北電力・古舘代理） (計 4 名)

欠席：太田（北陸電力），井川（中部電力） (計 2 名)

事務局：大東（日本電気協会） (計 1 名)

4. 配付資料

資料 25-1 運転管理検討会委員名簿

資料 25-2 第 24 回運転管理検討会 議事録（案）

資料 25-3-1 原子力発電所運転責任者の判定に係る規程 JEAC4804-2008 の改訂につい  
て（案）

資料 25-3-2 JEAC4804-20XX の改訂内容と理由一覧

資料 25-3-3 JEAC4804-20XX 「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改訂案

資料 25-4-1 原子力発電所運転責任者実技試験用シミュレータに係る規程 JEAC の制定  
について

資料 25-4-2 新 JEAC 構成案

資料 25-4-3 シミュレータ要求事項及び試験要件

参考資料 1 第 35 回原子力規格委員会 議事録（案）

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

事務局より，委員総数 18 名に対して本日の出席委員数は，代理委員も含めて 16 名で，  
検討会決議に必要な委員総数の 2/3 以上の出席が確認された。

(2) 代理参加者及びオブザーバ参加者の承認について

上記，代理出席者 4 名の会議参加について，検討会主査から承認された。

(3) 前回議事録（案）の承認

事務局より，資料 25-2 に基づき，前回の検討会議事録（案）が紹介され，承認され  
た。

(4) JEAC4804 「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改定案の検討

坂元副主査，富田委員より，資料 25-3-1～3 に基づき JEAC4804 「原子力発電所運転  
責任者の判定に係る規程」改定案関連の説明があった。審議の結果，本日の議論を踏ま

えて修正を行ったものを次回の運転・保守分科会に中間報告することが了承された。

主なコメントは、以下の通り。

a．資料中に「改訂」と「改定」という文言が使われているが、「改定」で合わせる。  
また、書体や改行などの体裁を整える。

b．民間規格と国の内規に不整合がある時には、民間としては進んで整合をとらなくてはいけないのか。

従前の例では、民間側が進んで受け入れられるものは反映したのものもあるし、反映しなかったものもある。民間規格なので、この検討会としてどこまで定めるかをご検討いただき、その結果を規格化するという考え方でよいと思う。

c．判定機関の指定は判定方法とは違うので、JEAC には判定方法を示すということにすれば内規との不整合を気にする必要はないという意見もあるが、とはいえ同じ事業者がやることなので整合を図ろうというものである。

d．3.a)「合否判定等業務等」は、「等」が2つもあってわかりにくい。

NISA の内規で「基準に適合するかどうかの判定及び基準に適合した者に係る更新の  
手続に関する業務」を合否判定等業務としている。その内容に「判定機関の指定」を  
含めて「合否判定等業務等」とした。

更問・P32 に「合否判定業務」、「判定業務」など同じような表現があるので、定義を含  
めて整合を図ってはどうか。定義の a)「合否判定等業務等」と f)「判定業務」の記載  
も微妙に違う。

「1.目的」から「合否判定等業務等」の文言を削除して、「3.定義」a)も削除する。  
内規を気にし過ぎないことにすれば、すっきりと整理できる。

e．改定箇所 No.12 の改定理由に「判定機関の指定を事業者責任にて行うことが可能と  
なった」とあるが、言い過ぎのように読めるので表現を見直した方がよい。

f．上位委員会への説明の仕方としては、前後比較表を使うこともあるが、今回の改定  
の場合は追加したものはその理由がわかるように、変更したものはどう変わったのか  
がわかるように資料の作り込みを行う。(比較表の方が説明しやすい部分は、比較表  
の作成も検討する。)

g．P15 表 3 の試験問題数の欄に「(多肢選択)」とあるが、現在の 4 択の形式を継続  
しない可能性があるので、「(多肢選択の場合)」と表現を見直したい。

記述式の問題を増やした場合、それに対していろいろな回答があると採点がしにく  
くなることが懸念される。

「多肢選択」イコール 4 択とは読めないので、当面はこのままとする。

h．解説 13 の図中の「訓練」「教育・訓練」とする。

i．P32 の内規変更のポイントの記載は必要なのか。

内規の表現を確認して、見直し等を検討する。

j．規格名称を「4804-201X」とする。

k．6.6e)の「6 月後」の「後」は不要ではないか。

5.8e)では「6 月」としているが、こちらでも「6 月」で問題ないので合わせる。

l . 6.6e)に「有効期間の終了」とあるが、「満了」のところもあるので合わせる。  
m . 附属書の最後に「以上」がある項とない項があるので、JISを確認してその書式に合わせる。

n . JEAC4804-2008 には「00.序章」があったが、他の規格の書き方に合わせて今回はその内容を盛り込んだ「1.目的」から始めることとした。

#### ( 5 ) JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案の検討

坂元副主査，浦野委員より，資料 25-4-1～3 について説明があり，JEAG4802 改定のうちシミュレータ関連の部分について議論を行った。本日の議論を踏まえて修正を行ったものを，次回の運転・保守分科会に中間報告することとなった。

主なコメントは，以下のとおり。

a . 資料中に「改訂」と「改定」という文言が使われているが，「改定」で合わせる。また，書体や改行などの体裁を整える。

b . この規格をコードで作るのはなぜか。

JEAC4804 で呼び込むので，こちらもコードとする方が好ましいためである。エンドース対象ということではなくて，実用上の理由である。

c . 今回，分科会では概要，章構成，海外規格との比較について説明しておきたい。その中で了解をとっておきたいのは，ANSI では炉心サイクルごとの評価が求められているが，ここではそこまでは含めないなど規格化に当たったの考え方である。

d . タイトルは「原子力発電所運転責任者運転実技試験用シミュレータに係る規程」とした方がよい。

e . 資料 25-4-2 の現行 JEAG4802 の欄に入れられるデータは落とし込む。

f . 現在，ANSI 関係で問い合わせ中のものについて，上位委員会で質問があった場合にはどのように対応するのか。

今回は主に進め方の説明なので，詳細は検討中ということによいと思う。

g . その回の分科会では活動計画の審議もあるので，その内容も踏まえて検討状況，スケジュール等を説明した方がよい。

h . 資料 25-4-1 4. は，「運転・保守分科会傘下の運転管理検討会にて・・・」とする。資料 25-3-1 も同様。

i . シミュレータ規格の検討スケジュール案は，H22 年 5 月：分科会に中間報告 / 6 月：規格委員会に中間報告，8 月：分科会にて審議 / 9 月：規格委員会にて審議，とする。

j . 資料 25-4-3 P2 の備考は，PWR は今回の規格案にて ANSI と合わせる（パラメータが現状から 1 つ減る）ので，「PWR は ANSI と同じ」とする。

#### ( 6 ) その他

a . 次回運転管理検討会は上位委員会への中間報告の状況を見て，別途，日程調整を行うこととした。

以 上